



一般社団法人 人間力認定協会

理解は支援の第一歩！

支援の輪を拡げよう！

延べ受講者数が二万名に

学校法人への導入も続々決定

児童発達支援士を二〇二〇年から認定し、三年が経過しました。お陰様で受講者数が増え続け、当協会が認定する三つの資格の受講者数をあわせると、三万名を突破いたしました。これほど多くの方に受講いただけたことを嬉しく思います。

この一年では、療育施設スタッフ様の団体受講や、学校法人から授業への導入に関するご相談を多く頂くようになりました。

受講される方が、個人のお客様だけでなく、療育施設や学校関係者が増えてきたことは、社会の意識が大きく変わってきているひとつの証と言えるのではないのでしょうか。特に学校への導入が出来たこと

は大きな一歩だと感じています。高校、専門学校、大学に通う学生が、児童発達支援士を通じて、発達障害のことを理解していく。その結果、その学生たちが社会に出た時に、支援者として活躍したり、自らが親となり子どもへの適切な対応ができるようになるでしょう。そのようにして発達障害への理解が広まっていくことが、当協会の願いであり活動の目的でもあります。

徐々にはありますが、子どもや保護者や支援者を、支援する体制が整ってきています。共に支援の輪を拡げていきましょう！

今後も皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

理事長コラム

児童発達支援士講座が学校や施設に導入されることは、理解が当事者だけでなく友人、先生方に広まっていくのでもとても重要です。

「発達障がい」への理解の先にあるのは、他者への思いやり、人間の多様性への理解と寛容です。マザーテレサの「あなたはあなたであればいい」という名言は、他の誰かと比べる必要なんてない。ありのままの自分でいいのだ。ということを教えてください。

そしてそのことが、社会の当たり前、コモンスenseとなるのが私たち協会の願いです。

今後とも受講者の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

一般社団法人 人間力認定協会

代表理事 井上智之



療育施設にてインタビューを行いました



放課後等デイサービス toiro (トイロ) 新吉田教室のスタッフ様

百名以上のスタッフが受講

神奈川県内で五十以上の放課後等デイサービスを運営しているtoiro(トイロ)では、スタッフ様のスキルアップのために、児童発達支援士の受講をして頂いております。これまで百名を超えるスタッフ様が受講されております。

十二月にtoiro 新吉田教室にお邪魔して、スタッフ様にインタビューをさせて頂きました。療育スタッフの皆様が、普段どういうことを感じているのか、児童発達支援士を学びどういった点が役立っているかなどお答えいただいております。インタビューの一部を理事長ブログにて紹介させていただきます。是非お役立てください。

下記にtoiro様のご紹介をさせて頂きますので、あわせて御覧ください。

神奈川県内に50教室以上運営中(県内No.1)

遊びと体験で やりたいを応援



放課後等デイサービス神奈川県No.1

toiro 療育

検索

<https://toiro-houkago.com/>

クラーク記念国際高等学校にて 児童発達支援士の授業が開講



クラーク記念国際高等学校 東京キャンパスの外観

学校導入の問い合わせ増

全国に六十キャンパス以上を構えるクラーク記念国際高等学校の東京キャンパス「保育・福祉コース」に通う生徒を対象に、二〇二三年九月より児童発達支援士の授業が導入されています。

高校生が学校の授業で児童発達支援士を学び、試験合格を目指すカリキュラムとなります。資格を有している先生が、児童発達支援士の教材を活用し、生徒に指導をする初めてのケースとなります。

実は、二〇二三年からこのような問い合わせが増えています。北海道、静岡県、広島県でも似たようなお問い合わせを頂いており、近々開講を予定している学校がございます。

この背景となるのは、やはり保育の現場で支援が追

いつていない現状があるからではないでしょうか。

実際に、お問い合わせをいただいた担当者様から、

「学生の就職先である、保育施設から『発達障害に関する知識を保有していると助かりますね』と言われたので、自校の生徒の強みとして、児童発達支援士取得を学校のカリキュラムに取り入れたいと考えました」
このように仰っていただきました。

このような流れは、支援の輪を拡げるためにとっても大切なことだと考えております。そこで、学校法人様の導入がしやすいように、二〇二四年は費用や条件を大幅に緩和しております。導入頂ける学校数に限りがございますが、ご興味のある方は是非とも一度ご相談ください。共に支援の輪を拡げていきましょう！

拡がる認定支援士の輪

新たにご登録いただいた認定支援士のご紹介

(2023.9.1 ~ 2024.2.29 ご登録者)

個人情報保護のため、ぼかしを入れています

認定支援士より頂いたメッセージをご紹介します

(全員のメッセージを紹介しきれないため、今回は一部の支援士のみご紹介します)

東海
エリア

団体名なし

仁藤あゆみさん

― 支援をして辛かった事は？
思い描いていた母親像や子育てと、怒ってばかりいる現実の自分の子育てのギャップにこれではダメだとわかっていてもどうすればいいのかわからなかったこと。

― 知識を習得して変化は？
知識をつけた事で私の子育てや子どもが悪いのではなく、発達に原因がある事がわかり子どもとどう接したらいいのかが具体的にわかり、子どもに振り回される事や感情をぶつけることが少なくなりました。

― 支援で大切なことは？
目の前で起きている問題行動に注目してしまうのではなく、その裏側にどんな困りごとや原因があるのか深く理解すること。

東北
エリア

団体名なし

寺嶋真里さん

― 資格取得のきっかけは？
現在の仕事で若年層の派遣の方が多く、育成をする上で、もっと早い段階で何か手助けが出来ないのか？と、考えていた時に、この資格と出会いました。これからの子ども達も、少しでも生活しやすい、また、大人になって積極的に社会に出ていける手助けをしたいと考え取得しようと思いました。

― 知識を習得して変化は？
現在の職務で、人との接し方、声の掛け方を工夫し、周囲にも呼び掛けする機会が増え、職場でも興味を持つて聞いてくる仲間が増えました。

東海
エリア

団体名なし
匿名希望さん

資格取得のきっかけは？

児童発達支援士の資格を取ろうと思ったきっかけは、現在勤めさせていただいている職場では、外国籍のお子さん達が多い場所です。言葉の壁もあり、文化の違いの他、発達がゆっくりなお子さんなのか、言葉の力べなのか、区別が難しく、自分自身、より役に立てる為、お子さんの気持ちや保護者の気持ちも含め、より丁寧な支援が出来るために、発達の勉強をしたいと思いました。

資格を取れた事で、自分の取り組み姿勢を見直すきっかけに。自分の考えが変わり成長のきっかけになったことから、子ども達により分かりやすく、自己肯定感を高める為に、一生懸命頑張りたいと思っています。学びのたくさんある講座でした。

東海
エリア

団体名なし
匿名希望さん

知識を習得して変化は？

何より自分の気持ちに余裕が出来たことが一番です。小学校には支援児童以外にも、特定の場面で手助けを必要とする児童や、また何かと周囲とぶつかりやすい傾向のある児童など、様々な特徴の児童が集まっています。

支援児童とそうした児童間で、トラブルが起きた時の対処には苦慮することも多いのですが、発達障害コミュニケーションセッションサポーター取得の際に学んだ、ネガティブ発言に対するポジティブ言葉への言い換えが大いに役立っています。ポジティブ言葉への言い換え例を更に考えておき、日々の支援に役立てることが出来ています。

九州
エリア

団体名なし
藤山奈央子さん

支援をして辛かった事は？

感覚に過敏なところもあり、花火などの大きな音や体育館で人が集まるガヤガヤとした音が苦手なものが多かったです。偏食で食べられるものがない。そういった小さなことを配偶者が理解しようとせずに「なんでできないの！」「さっさとすれば良いでしょ！」「甘えるな！」と怒鳴り付けることが一番辛い。目で見えない障害であると、周囲が理解しようとする姿勢を見せてくれないのが障がい児支援において一番の壁であると思います。

支援で大切なことは？

第一に周囲の理解、これに尽きると思います。知識を学べば「今どうしてこのようない行動をとるのか」推測出来るのに何をしたら良いのか、改善点はどこか見つけ出すことが出来ます。

～会員様の活動サポート～

活動団体やWEBサイトの紹介

皆様の活動を応援するために、当協会のWEBサイトにて皆様の団体やブログ等をご紹介します。もしご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください！支援の輪を共に広げましょう！

(活動団体のご紹介事例)

